

# NAWA NAWA

-- Daily Report in Namibia

February 19 2014 / No.1  
Pressed by Mari Kodama  
REPUBLIC OF NAMIBIA

## WHAT IS NAWA NAWA?

アフリカ最南西の国、ナミビア共和国での生活が始まりました。通信のタイトルである「ナワ」とは、ナミビアの言葉、オシヘレ口語で「元気だよ!」という意味です。毎日の挨拶にはかかせない「ナワナワ」より、ナミビアのイロハから活動のことまで、日々のナミビアンライフをお届けします!

## MY MISSION

2014年1月14日~2016年1月13日の2年間、青年海外協力隊員としてここナミビアにやってきました。私の活動先はオプウォという小さな田舎町にある小学校で、算数、理科、美術、体育等を主に教えます。日本から遠く離れた異国の地で、目の前の子どもたちとじっくり向き合いながら、自分にできることをぼちぼちやっていこうと思います。

## JOURNEY TO NAMIBIA

さてさて、記念すべき第1号では、ここナミビアの国について紹介します。日本を出発して4時間でまず香港、乗り継ぎをして13時間で南アフリカ共和国、そして再び飛行機に乗ること3時間、やっとやっとナミビアへ到着しました。乗り継ぎの時間も合わせてほぼ1日の大移動。飛行機に乗るたびに食べた機内食の中で、見事グランプリにかがやいたのは日本 香港間で食べた「和定食」。早くも感動してしまいました。その後の飛行機では「チキン or ビーフ?」の選択肢のみ。そう、どっちも肉でした。



サワラとハーゲンダッツには感動



ホセア・クタコ空港からの景色

そんな話はさておいて、やっと到着したナミビア。第一印象は「空が広い!空が青い!」。飛行機を降り立った瞬間、上を見上げなくても、目の前に広がる壮大で美しい青いスケールを360度全身で感じ、羽があれば確実に飛んでいっちゃうところでした。あぶない、あぶない。写真では伝えきれないこの感動。なんとも悔しい限りです。次回の夏休みはハワイではなくぜひナミビアへ、お越しくださいませ。

# NAMIBIA



首都：ウイントフック Windhoek  
面積：約 82.4 万km<sup>2</sup> (日本の 2.2 倍)  
人口：約 226 万人  
言語：英語(公用語)、アフリカーンス、ドイツ語、部族語  
民族：オバンボ族 50%、カバンゴ族 9%、ダマラ族 8%、ヘレロ族 8%、白人 6% など  
宗教：キリスト教 90%、伝統宗教  
通貨：ナミビア・ドル(N\$ 1=10 円)  
時差：8 時間 (サマータイム 7 時間)

# NAWA NAWA

-- Daily Report in Namibia

February 20 2014 / No.2  
Pressed by Mari Kodama  
REPUBLIC OF NAMIBIA

## THIS IS AFRICA

ナワナワ！ところでみなさん、アフリカと聞いて、まずどんなことを連想しますか？黒人、野生動物、貧困、戦争などなど、どちらかと言えばマイナスイメージが多いのではないのでしょうか。実は私もマラウイに行く前はそうでした。しかし、真実というのは、地に足をつけて、目で見て感じて触れて、それで初めて得ることができるもの。ここ、ナミビアも同じ。この通信もみなさんにとってはただの情報ですが、私なりの視点で、ナミビアの文化や人々のディープな暮らしをお伝えできればと思います。

## LIFE IN WINDHOEK-1-

さて、第2号ではナミビアの首都ウイントフック（Windhoek）について紹介します。活動地であるオプウォに行く前に、語学訓練のため首都で1カ月間を過ごしました。アフリカなんて何もないんじゃないか・・・なんて大間違い！特に首都に関しては、何不自由なく暮らせませす。今回は、中でも「よっさずが都会！」なウイントフックをお届けします。



街中には車、タクシーがたくさん。実は、ほとんどが我らが誇る日本車！トヨタ、マツダ、スズキなどおなじみブランドの中古車が多いです。ナミビアにきて日本語が読めるなんて、なんとも不思議。ナミビア人はちゃんと信号守ってますよ。世界最高級ホテル「ヒルトンホテル」ここにあり。国立図書館。貸し出しは×。自習スペースでは学生の姿も。



大型スーパー「ショッピングライト」。南アフリカ系で日用品、衣類から食料品まで揃ういわばイズミヤが全部ワンフロアに収まったかんじ。マルーアモールを歩く私。イオン級のショッピングモールが首都には3つあります。女性には嬉しいボディショップもありますよ。ユニクロ的な衣料品店。カフェのピザ。これで600円くらいなんてびっくり！

## おまけ -ここがびっくり！ナミビア！

ちょこっと大人な話を。ナミビアはビールやワインなどお酒がとっても安いのです。500mlの瓶ビールで100円ほど。ワイン1本300円～1000円。しかし、お酒が買えるのは平日と土曜日の午後1時まで。土曜の午後と日曜は買えません。にしても、ナミビア人はお酒好きで昼間からバーで飲みまくっています。彼らにとってお酒は「ガソリン」だそう・・・



左：ウイントフックラガー。金賞受賞。

右：南アフリカ産ワイン。800円程。

# NAWA NAWA

-- Daily Report in Namibia

February 23 2014 / No.3  
Pressed by Mari Kodama  
REPUBLIC OF NAMIBIA

## LIFE IN WINDHOEK - 2 -

ナワナワ！毎日暑くてとろけそうです。ナミビアには日本のような四季はなく、12～3月は雨季、それ以外は乾季。今はちょうど雨季にあたりますが、雨季といっても日中は30度以上、朝晩は割と冷え込みます。しかし、湿気がほとんどなく、暑くてもあまり汗をかかないので、じめっとした日本の夏よりかなり過ごしやすいです。洗濯物なんて、2時間あれば一瞬でかわいちゃいます。

さて、第3号では引き続き首都の様子をお伝えします。テーマは「This is Africa」なウイントフック。アフリカの光と影が垣間見られるのも、ここ首都ならではのものです。

## WHAT IS POVERTY?

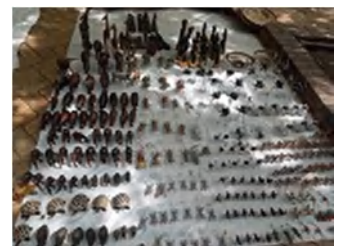
貧困、とはなんでしょうか。物理的に貧しいことを貧困というのでしょうか。ここ、ナミビアは他のアフリカ諸国に比べて豊かな国だと言われて



いますが、貧富の差が極めて激しい国でもあります。その事実を指標するジニ係数は8以上、格差の大きさマックスです。観光資源や鉱物でうろうおうナミビアには、表には見えない、毎日を必死で生きている人々が大勢います。その大半は、ロケーションと呼ばれる黒人居住区、トタンとビニールでできた住居に住んでいます。しかし、彼らの生き方は、と



ても人間らしい。人と人との関わりを大事にし、瞬間瞬間を楽しんで生きている、そんな印象を受けました。ここロケーションにいと、街中にいるだけではわからない、人々のディープな暮らしが見えてきます。



街中のど真ん中にある隕石。大昔に宇宙より降ってきたそうですが、その真相は謎のままです。ダムにたたずむ私。釣りや散歩をして休日のをんびり過ごす人々の憩いの場です。路上マーケット。木彫りの置物やアクセサリーなどお手頃価格で販売しています。

## おまけ ここがびっくり！ナミビア！

右の建物は世界のある国によって建てられたもの。みなさん、一体どこの国だと思いませんか？実はこれ、北朝鮮によって建てられたモニュメント。ナミビアには、地下資源として発掘されるウランを求めて、中国や北朝鮮から多くの労働者がやってきます。まさかここナミビアで、北朝鮮人と会えるなんて思ってもみませんでした。英語は通じなかったけど気さくな人々でした。



# NAWA NAWA

-- Daily Report in Namibia

February 28 2014 / No.4  
Pressed by Mari Kodama  
REPUBLIC OF NAMIBIA

## CHILDREN IN WINDHOEK

ナワナワ！最近は雨の激しいサウンドで目が覚めます。さて、第4号では、首都にある学校を紹介します。ナミビアの教育課程は、Primary School 1～4年、Senior Primary School 5～7年、Primary High School 8～10年、Senior Primary High School 11～12年となっています。それぞれの学年があがるごとに年度末テストがあり、不合格だと次の学年に上がれないという中々厳しい制度なのです。今回は、首都にある小学校と高校をちょこっとのぞいてみましょう。

## KOHMAS HIGH SCHOOL

コーマス初等高校。日本の高校生と同じで、男女共におしゃれに敏感な高校生たちでした。そしてとってもフレンドリー！飛び入りで日本語を教えたら大ウケ。自分の名前を漢字で書いて！と寄ってたかってはサイン会状態になってしまいました。こちらが日本語を教えた代わりに、生徒に先生になってもらい、私が赴任する町の現地語「オシヘレ口語」を教えてもらいました。「君、かっこいいね！」は「オヴェ オムワンドゥ オムワ」というそうですよ。



## St. ANDREW PRIMARY SCHOOL

セイント・アンドリュース小学校。小学1～7年生が通う公立校です。制服もあります。公立小学校は義務教育ではないですが、数年前から学費がタダになりました。子どもたちは、気さくでやんちゃで、とっても元気いっぱいです。いくつかの授業を見学した中で印象的だったのは5年生のArts。何とも斬新な筆の使い方で絵具を半分に折った紙上に落とし、それをたたんで広げるとシンメトリーな形のできあがり。子どもたちはとっても嬉しそうでした。ナミビアの学校のArtsは日本でいう図工と音楽の両方が含まれています。最後に、特別に私へのすてきな歌のサプライズプレゼント！その歌詞がまた、とっても感動的なものだったので、紹介させていただきます。



### No matter who I am (私はわたし)

No matter what the color of my skin. (肌の色なんて関係ない)

No matter what the house I'm living in. (どんな家に住んでいるかも関係ない)

I say no matter the language I am speaking. (話す言(話す言葉ももちろん)

I was born from Namibian soil. (私はナミビアに生まれた。)

I was born from Namibian soil. (私はナミビアで生まれた。)

I am a Namibian. I am a Human being. (私はナミビア人。私は一人の人間。)

Acknowledge my existence and acknowledge yours. (互いの存在を認めあおう。)



# NAWA NAWA

-- Daily Report in Namibia

March 3 2014 / No.5  
Pressed by Mari Kodama  
REPUBLIC OF NAMIBIA

## BEAUTY OF NATURE

ナワナワ！3月に突入しましたね。日本では、あたたかい風や草木が芽吹きだす様を見て「あぁ春だなぁ」と感じていましたが、ここナミビアでは「あつい」しかないのです、月日の移り変わりを体感できない今日のこの頃です。さて、ナワナワ第5号では、「美しい自然、ナミビア」をテーマにお届けします。アフリカといえば野生動物、そして、ナミビアと言えば、「ナミブ砂漠」。首都に滞在中、休暇を利用して訪れたスポットをご紹介します。

## DAAN VILIJON

首都から車で30分ほど離れた場所にある動物保護地区です。ここでは、ゾウ、キリン、バッファロー、インパラなど、数多くの野生動物が住んでいます。が、これらの動物と出逢えるかどうかは運次第。どうやら私はラッキー



だったようで、バッファローとキリンをかなり間近に見ることが出来ました！バッファローの肌は思ったより黒く、キリンは思ったより年老いておりました。草食系として知られる動物ですが、いざ間近でみると、その迫力と大きさにちょっとびっくりでした。



## SWAKOPMUND

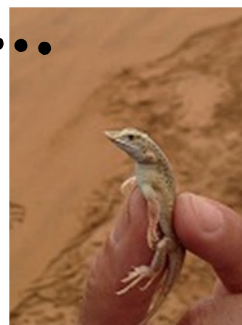
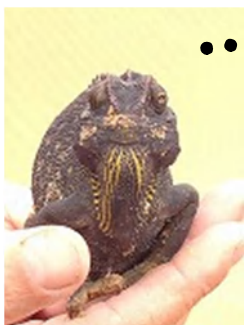
ナミビアの西、大西洋に面する年スワコップムントに行ってきました。首都から車で3時間ほど。実は、ナミビアの海沿いの町ではカキが有名で、まさかアフリカで生ガキを食べることが出来るなんて思ってもみなかったことです。もちろん大西洋を見るのも初めて。興奮しました。そして、念願のナミブ砂漠へ。見渡す限り、砂漠、さばく。世界遺産にも登録された最古の砂漠といわれる歴史あふれる砂の上に立っているんだと思うと、なんだかタイムスリップしたようでした。



そして、この砂漠の中にも生命はすくすくと宿っています。カメレオン、ヤモリ、トカゲ、蛇など、身体は小さいけれど、たくさんの命に触れあうことができました。ガイドさんによると、ここ数年は我々のような観光客が乗る乗り物、また温暖化等による環境変化によって、動植物の数も年々減っているのだそう。自然に生かされている我々人間には、自然を保護する義務がある、そう改めて思ったのでした。（次号からは、活動地オプワの様子をお届けします！お楽しみに！）



## ・・・さばくの生き物たち・・・



左) カメレオン。のんびり動いていました。  
中) ヤモリ(ゲッコー)。夜夜夜行性。透明色で  
右) トカゲ(リザード)。小さくてすばしっこい。